

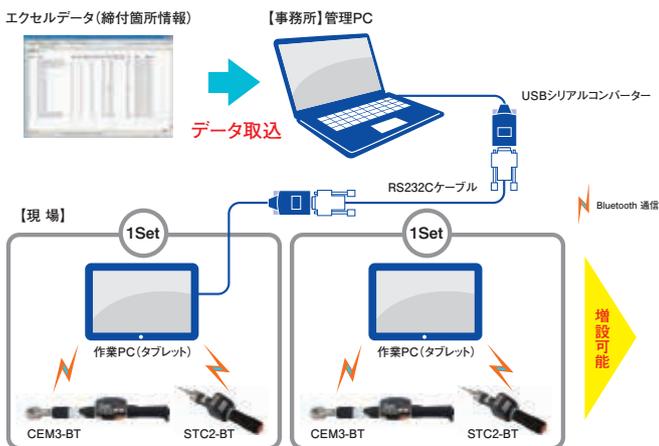
締付トルク管理システム

開発目的

過去の事例をみると、分電盤等における電線・ケーブル接続箇所の締付不足から、発火や短絡・地絡による停電などは利用者に多大な被害を及ぼしております。電気工事の品質管理において接続箇所の締付確認は非常に重要なポイントとなります。そこで締付不良削減のため、無線通信機能を有するトルクレンチを活用し、工事現場に順応したソフトウェアを作成してシステム構築を行い、主に大型現場における締付トルク管理の適正化と省力化を図ります。

特徴①

基本構成としては、管理用パソコン（管理PC）1台と複数のタブレット端末（作業PC）を利用し、多くの盤の締付確認作業を分担して行うことができるようにしたもので、締付忘れの防止と業務効率化が図られます。



- ◎締付箇所情報は、エクセルの定型様式により管理PCに読み込みます。
- ◎管理PCと作業PCとのデータのやり取りはRS232Cケーブルを介して行い、現場毎のデータは管理PCに蓄積管理します。

特徴②

現場での締付作業は、管理PCから締付箇所情報を移行した作業PCを使用し、画面に表示される使用すべきトルクレンチや適正なトルク範囲、過去の締付状況等を確認しながら実施します。その際、分電盤や配電盤の名称、回路番号(端子番号)を画面から選択して締付を行う事により、そのトルク値(締付完了確認)が作業PCに送信される仕組みとなっております。



- ◎トルクレンチは(株)東日製作所製のBluetooth通信機能付トルクレンチを使用しております。本トルクレンチは双方向の通信機能を持つ事から、タブレットからトルクレンチへ締付回路毎の適正トルク値の送信が可能になっており、締付毎にレンチの設定トルク値の変更が不要です。

特徴③

締付後のデータは、管理PCに一括保存し、必要に応じエクセル形式で出力し印刷可能としており、記録様式の作成や編集等の作業が軽減されます。

